



だいや川通信

今市の水を守る市民の会

第19号

2004年12月1日(水)

新たな「発見」を求めて

早いもので今年も残り少なくなっていました。

本号が発行される頃には県知事選の行方も決しているでしょうが、今回の知事選では残念ながら思川開発・南摩ダムの是非に関しては十分な争点とはなりえませんでした。いずれにしても大谷川取水中止の決定をくつがえすような動きが息を吹き返すことにならぬようお願いしたいものです。

そうした中、既に新聞報道等でご存知のように、当会も所属する「流域の会」が市民オンブズパーソン栃木と協力、南摩ダム、八ツ場ダム、湯西川ダムに関し建設差し止めを求める住民訴訟を行っていくことになりました。この件については今後も折にふれて会員の皆さんにも情報を提供して行きたいと考えています。

さて10月9日に予定した「ゆったりウォーク・行川編」はこれまで以上に多くの会員の皆さんから参加の申し込みがあったのですが、台風でやむなく延期となったのは残念なことでした。

改めて実施された11月13日は延期のかいあって快晴。現金なもので恵まれた天候の下、久しぶりのウォーキングに全身の細胞が喜んでいった気分で歩くことができました。今回のウォーキングでは駅舎の見学や手打ちそばの昼食、ミニコンサートなど楽しい企画とは別に小代の湧水が印象に残りました。

自噴している水には驚きとともに、うらやましさも感じました。

今市には多くの湧水があり、市がボランティアを募って定期的に監視、観察活動を続けているようですが、もし、思川開発の導水管が通されていたら、こうした湧水にどんな影響があったのかと思うと背筋が寒くなるような気がします。

こうしたことも百聞は一見にしかずで、実際に歩いてみて初めてわかるものなのだ、しみじみ感じた次第です。地味な活動かもしれませんが、新たな「発見」を求めて来年も楽しく歩き続けて行きたいものです。(森)



目次:

新たな発見を求めて 1

ゆったりウォーク 行川編 2

水の里を歩く 下小代を再発見 3

事務局より 活動日誌 4

八ツ場ダムとは 4

次回の定例会は
12月11日(土)
午後1時から
今市市民活動支援センターで行います。
どなたでも参加できます

「ムダなダムをストップさせる栃木の会」発足

南摩、湯西川、八ツ場ダム(4ページを参照)への公金支出は違法として市民オンブズパーソン栃木と県民約20名が知事に事業負担金支出差し止めとすでに支出された約9億円の損害賠償を求める訴えを宇都宮地裁に起こしました。また、宇都宮市に対しても湯西川ダム事業に関して、宇都宮市長に事業差し止めと約8億円の損害賠償を宇都宮地裁に提訴しました。これらの動きを支える「ムダなダムをストップさせる栃木の会」が発足。

年会費:3,000円・カンパもよろしく

郵便振替口座 00140-1-500609



グリーンスシール
残りわずかです
お問い合わせは
事務局または
三水堂つり具店
(0288-21-0217)へ



ゆったり ウォーク 行川編①

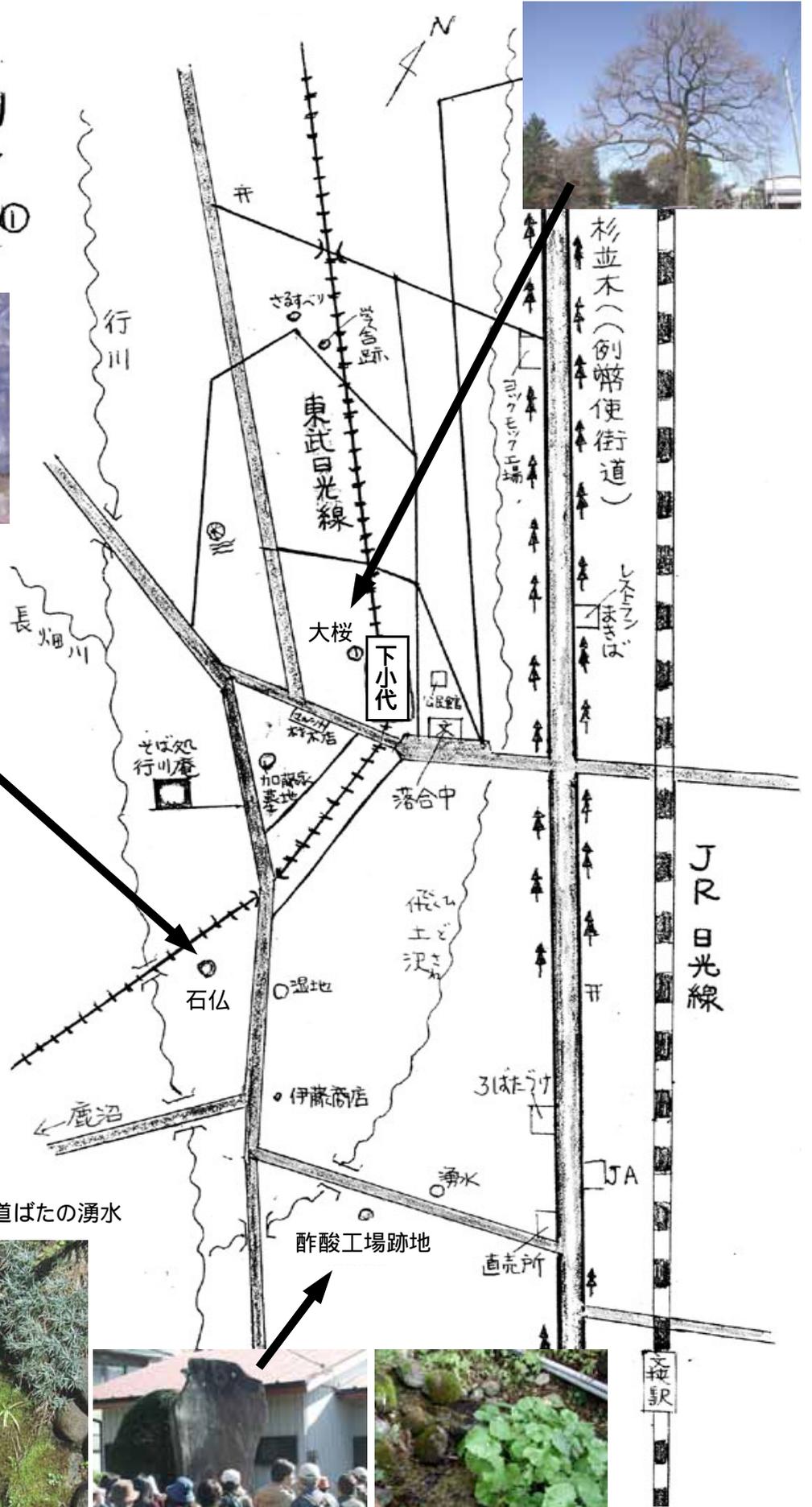
コウホネの実



道ばたの湧水



湧水に育つワサビ



水の里を歩く

下小代を再発見....

台風の為延期された「ゆったりウォーク」ですが、朝から素晴らしい天気にも恵まれた11月13日(土)、27名と柴犬ボブは穏やかな秋の日を浴びてのんびり・ゆったり田んぼ道を歩いてきました。

懐かしい光景と土の感触がとても心地よく伝わってきました。でもそれだけではありません。下小代地区は近代日本の経済発展の礎となった証がたくさん残されている場所であり、また昭和24年の今市地震後も涸れることなくこんこんと水を生み出している湧水の清らかさも、「わさび沢」という字名が残されていることでこの地区が水の里であることも実感できました。やっぱり自分の足で歩かなければ体得できないものばかりです。加えて、蕎麦通の間では有名な行川庵の天ざるを昼食に取ることができ、おなかも大満足でした。

これからますます田舎が注目されてきます。堂々と胸を張って田舎の良さを誇りましょう。小代地区はそれに応えてくれる場所だと思います。下小代駅を基点に行川ウォーク、田の道ウォーク、蕎麦ロードなど、地元の若い人達が新しい企画を練っているのだそうです。その活動に注目していきたいと思います。

今回は、『下小代駅を活かす会』のスタッフの方々と『そば処 行川庵』の皆様へたいへんお世話になりました。紙面を借りてお礼申し上げます。

(塚崎庸子)



「下小代駅を活かす会」ホームページの写真もご覧ください。
<http://www.plusco.jp/shimogoshiro.html> でアクセスできます。



参加者の声

ゆったり、のんびり、たのしい一日でした。そばもおいしいし、下小代駅を守る会の若い人たちにも力を感じました。秋紅葉散策、楽しく参加しました。天気、最高！おそば、最高！下小代の地域も良かった。今

市の水、新たに認識させられました。水の大事さを多くの人たちに知ってもらいたい。ごちゃごちゃした都内を離れ、自然を存分に満喫。久しぶりにゆっくり自然の中を歩き、気持ちよかった。下小代周辺は、自然の豊かさ、水の豊かさが魅力的。昔を思い出しながら歩く田の道、いつまでも残されることを心から願いたい。バンドの音がよかった。里山の観察もできて、湧水の流れも清らかで楽しく過ごすことができました。小代には年に何度か来ていますが、今までまったく知らないところを歩いて楽しかった。駅舎ももちろん、行川庵の庭など、もっと大切にしたいものがたくさん見つかりました。コウホネはまた見に行きたいですが、一人でたどり着けるか心配です。あらためて小代周辺を歩いてみて、きれいな水に恵まれた豊かな地域だと思いました。貴重な自然文化を地域の遺産として後世に残していくことができればよいのですが、僕は小代で生まれ育ちましたが、このウォーキングで行川の美しさや、小代のちょっとした自然の風景に「なあって、いい所じゃないか」と感動。小代出身でしたが、知らない世界を見ることができ、とても感動しました。とくに湧水は神秘的で、大切な恵みであること、この土地の特徴であり誇りでもあると思いました。足元をよく観察することで、生きる力の源を感じることができた。



事務局より・活動日誌

- 8月7日(土) 流域の会・久保田堰(黒川)見学会参加
- 8月8日(日) 南摩ダム建設予定地見学会
- 9月4日(土) 流域の会定例会参加
- 9月11日(土) 当会定例会(支援センター)
- 9月17日(日) 事務局会議(支援センター)
- 10月2日(土) 流域の会定例会参加
- 11月6日(土) 流域の会定例会参加
- 11月13日(土) ゆったりウォーク・行川編

ハッ場(やんば)ダムについて (ホームページより)

ハッ場ダムとは、榛名山の北西に位置する吾妻渓谷をつぶして建造されるダムの事です。群馬の山間部に作られようとしているこのダムに、壮大な無駄がつまっているとはなかなか気が付きません。しかしこれは、現在の情勢では全くと言っていいほど必要の無い建造物です。さらには、建設後の高い維持費、自然に対する大きな負荷、地域住民の意向を無視した保障など建設後にも大きな問題を残すことは目に見えています。これらを明らかにし、皆が理解することによってまだ始まっていない本体工事を中止させることができるのです。これは、群馬県民のみの話ではありません。東京・埼玉・千葉・栃木の人々にも多大な負担をかけるものです。市民オンブズマン群馬で割り出したその総工費は、実に2兆円を超えるものです。ちょうど諫早湾の工事規模だと考えれば、その大きさがわかると思います。それが関東近辺すべての人の水道料金に跳ね返ってくるのです。一人でも多くの人にこのことを知ってもらいたいと思います。



なぜ無駄なのか？

甘い建設費予算の見積もり、すでに予算は膨らんでいる ダム建設計画発足は50年前 付帯工事を含めた私達の試算は2兆円 上流に存在する多くの地すべり地帯 強酸性の水を中性にするための維持費も大変

いったい何のためのダムなのか？ 誰のためのダムなのか？ 水需要ひっ迫の大ウソ 大災害発生時にすでにダムは埋まっている 解決しなければならない住民の補償問題

吾妻渓谷が、自然のダムの働きをしている

渓谷の自然美は貴重な財産、絶滅危惧種の住まいを守るためにも以上、<http://www.ne.jp/asahi/ombudsman/gunma/dam/yanba2001.htm>より引用、一部を要約しました。

地図は <http://yamba.parfe.jp/library/outline.html> より引用しました。

連絡先

〒321-1102 今市市板橋1732-1 森方
今市の水を守る市民の会

郵便振替口座

00140-4-535550

0288-27-2183 (8時~17時:森)

0288-26-3324 (17時~21時:塚崎)

<http://www.somesing.net/daiyagawa/>

会費振り込みのお願い

本会は皆さんからの会費で運営されています。この通信の印刷・発送費用など、すべて会費からまかなわれています。

前年度から振り込みが無い場合、今回をもって通信の発送を停止させていただきます。一口(1,000円)以上を振り込み用紙で郵便局にてお支払い下さい。引き続き会員として本会のご支援をよろしく願います。

編集後記

ゆったりウォークが台風で延期になった関係もあって、10月末の発行予定がずいぶん延びてしまったことをお詫びいたします。前回の後記で取り上げた新潟・福井の水害とダムの関係は、インターネットでちょっと調べてみましたが、今のところさまざまなデータが入り乱れていて、まとめようがない状態です。もう少し追跡したいと思います。8月に会の行事として、久保田堰と南摩ダムの予定地を訪問してきました。久保田堰は黒川の上流から板荷に水を引くために、約130年前建設されました。それを指導したのは、二宮尊徳の弟子である久保田讓之助という人だそうです。この用水のおかげで米作が可能になり、板荷が豊かになったと伝えられています。堰いっぱい澄み切った水がゆったりと流れていました。黒川の水を導水管で南摩ダムに引くという計画があります。この久保田堰の水はいったいどうなるのだろうか本当は心配になりました。写真は板荷中学校付近を流れる久保田堰です。(手塚)

